



パネルディスカッション

被害児童・生徒と保護者のために必要な支援と関係機関連携

コーディネーター兼パネリスト：岩切 昌宏氏 大阪教育大学学校安全推進センター准教授

パネリスト：佐藤真奈美氏 公益社団法人被害者支援都民センター相談支援室長代理

吉田 幸代氏 千葉県警察本部犯罪被害者支援室上席相談専門員

犯罪被害を受けた子どもや家族は孤立しやすく、支援には関係機関の連携が求められています。しかし、学校との間に壁があると言われる。パネリストはそれぞれの支援活動と学校との連携について話し合いました。

まず、学校精神保健を専門とする大阪教育大の岩切昌宏氏が、児童・生徒のさまざまな犯罪被害の現状を示

し、学校の対応を説明しました。担任や養護の教員のほかスクールカウンセラーなどの専門家が相談、さらに学習や登下校、別室利用などで配慮をしていますが、学校では児童・生徒のトラウマ反応が十分把握できないといえます。「学校と家との違いや中長期の反応が分かりづらい」ので、他機関との連携が必要と指摘しました。

岩切昌宏氏

被害者支援都民センターの佐藤真奈美氏は、学校との連携は「センターにとって非常に難しいテーマ」と話します。実際に2020年度から3年間に支援した小中学生のケース43件のうち学校とやりとりしたのは7件のみ。ほとんどが担任教員やスクールカウンセラーと連絡を取り、学校での配慮や環境調整を求めて情報共有するといった担当者ベースの連携とといいます。千葉県警の吉田幸代氏は、警察の被害者に対する配慮や心理的支援、給付制度の窓口任務など、刑事司法手続き中に行われる支援を紹介しました。しかし、その後も関係機関によって支援をつなげていくには、「学校現場の方たちとの連携が重要」としました。

吉田幸代氏

佐藤真奈美氏

続いて岩切氏が複数児童の性犯罪被害という架空事例を示し、具体的な対応について話し合いました。支援センターの佐藤氏は、周囲の目や将来に不安を抱く親に寄り添いつつ、子どもの意向が尊重される支援が必要とといいます。学校との連携は、被害の影響で登校できないとか、男の先生が怖いといった症状もあるので、子どもの意向を聞いた上で学校とやりとりする。ただ、支援センターが間に入ることで「被害者の持っている力を奪うことにならないよう」に心がけているとといいます。千葉県警の吉田氏は、聴取や司法手続きに対して心配な時は相談してもらい、司法面接には「どのタイミングで支援、心のケアに入るか」を相談して進めると説明します。

性犯罪は知られたくない被害者側の思いもあって、学校として把握していない場合があると岩切氏は指摘しました。噂を恐れ普通に振る舞うなどで、「学校では見えないことが多く、いろんなところと連携できると非常にいい」と助言します。情報を校内のどこまで伝えるかも

課題とといいます。被害後に学校が出す「注意喚起」は、防犯と相談を促す意義がある一方で、被害児童には自分のことが言われていると思うので事前に了解が必要と指摘しました。

さらに架空事例として集団下校中の交通事故について検討しました。支援センターの佐藤氏は、重傷の児童だけでなく死亡した児童の家族に目を向け、心理的ケアとともに、つながりが切れてしまう学校との連携が求められるとといいます。同級生と一緒に進級させたい要望があれば「学校も含めて一緒に考えていく」。また、交通事故に気をつけようというメッセージは、気をつけなかったから被害に遭ったと捉えられることもあり、こうした遺族の心情を学校に伝えることで二次被害を減らせると指摘します。

吉田氏は、警察では事故の目撃児童から話を聞かざるを得ないとしながら、どのタイミングでどう聞かか、学校や保護者とよく協議するといいます。現場検証で被疑者に児童たちが鉢合わせしないよう「配慮させていただく」としました。

岩切氏は、大きな事件事故が起きると学校は教育委員会と危機対応の体制を取り、専門家が緊急支援に入るが、学校では運営は難しいとといいます。対応マニュアルがあってもパニックになってしまいがちなので、事前に警察や支援センターも入ってシミュレーションしておくで「何かあって初めて顔を合わすわけではないので連携が取れて対応できる」と助言しました。

ただ、支援センターの佐藤氏は「学校の敷居が高く、かわりにくい」、吉田氏も警察というだけで「先生の声がピシッと硬くなる」と言います。一方で、これまでの支援での経験から佐藤氏は「まず連携して、それを積み上げていくことが重要」と期待し、吉田氏も「一緒にお仕事させていただくと敷居が下がると感じています」と話しました。

岩切氏は、日頃の啓発活動から警察や支援センター、さらに学校や教育委員会がタイアップしておくことで、児童や保護者への支援がスムーズにできるとあらためて強調し、「きょうの機会に分かっていただければ」と締めくくりました。